

選手と薬剤師で考える

アンチ・ドーピングワークショップ2017inとかち

日時：平成29年9月16日(土)

13:30～16:30

会場：幕別町百年記念ホール 講堂

主催：一般社団法人 北海道薬剤師会

共催：公益財団法人 日本体育協会

公益財団法人 北海道体育協会

後援：帯広学校薬剤師会 十勝病院薬剤師会 帯広市体育連盟

一般社団法人 北海道病院薬剤師会

参加者：1. 第一部参加者数 59名

2. 第二部参加者数 43名

(内訳：薬剤師20、指導者3、関係者2、
選手18)

はじめに、本ワークショップは2015年札幌開催以来2年ぶり4回目で、初めての地方開催となった。会場は帯広市の隣町、パークゴルフ発祥の地・幕別町。同町からは陸上女子短距離の福島千里さん、女子スピードスケート高木菜那・美帆さん姉妹、女子7人制ラグビーの桑井亜乃さん、男子マウンテンバイク(MTB)の山本幸平さんなど多くのオリンピックが生まれており、アンチ・ドーピング活動に縁を感じる場所での開催となった。

第一部 一般参加型の公開講座。親子連れや女性のグループもあり来場者にはアンチ・ドーピングに関する冊子や資料等が配布された。

①「スポーツファーマシストと

その活動について」

北海道薬剤師会

アンチ・ドーピング特別委員会

副委員長 前田直大

- ・北海道薬剤師会でのアンチ・ドーピングに関する活動とスポーツファーマシスト(以下SP)について
- ・選手と薬剤師で考えるアンチ・ドーピングワークショップの過去の開催状況
- ・アンチ・ドーピングのブース活動として2015年世界女子カーリング選手権大会(札幌大会)と2017冬季アジア札幌大会(札幌・帯広会場)での活動を披露。

アンチ・ドーピング特別委員会委員

豊谷高明

ドーピングの基礎的な規則違反、禁止物質、「うっかりドーピング」の事例、禁止薬物の検索や確認の方法として日本アンチ・ドーピング機構(JADA)サイト「Global DRO」と北海道薬剤師会HPからのFAX問い合わせ、全国に約7000人いるSPの検索方法を解説した。

②「アンチ・ドーピングに関する最新情報」

北海道体育協会スポーツ科学委員

北海道薬剤師会常務理事 笠師久美子

頭を悩ませる3つの問題点を紹介。

1. サプリメント：H19～H28年の国内違反事例として62例74の禁止物質の一覧。薬剤入手先としてネット・通販が上位を占め簡単に手に入る時代となり特に海外製品のサプリメントや健康食品には蛋白同化ホルモンを含有する製品数の割合が高い国もあるため海外製品の購入には注意が必要となる。クリーンと言われていた国体で初めて出た薬物違反は11種類のサプリメントを服用していたというショッキングな事実。
2. TUE(治療使用目的)：禁止物質や禁止方法であっても事前に所定の手続きによってTUEが認められれば例外的に使用が可能となるが、3名以上の医師で構成するTUE委員会で申請内容を審査するので時間を要するため余裕をもって提出する必要がある。

3. 居場所情報義務違反：いつでも抜き打ち検査ができるよう選手は1日のスケジュールを提出。居場所と情報に変更があった場合12ヵ月で3回の違反でアンチ・ドーピング規則違反となりドーピング陽性と同様、出場停止等の罰則が与えられる厳しい内容となっていること。これらを踏まえて、

1. 症状が似ていても他の人の薬は使わない
2. 飲み薬だけが薬ではない、外用剤も同じこと
3. 受診の際には正しく情報を伝える
4. 競技が近づいたら特に薬には注意
5. 栄養は食事からしっかりとることに心がけてほしい と呼び掛けた。

③特別講演（トークショー）

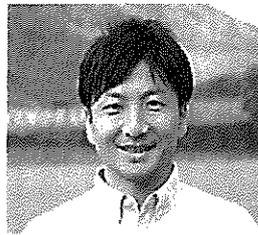
「アスリートからの提言」

北海道コンサドーレ札幌 アドバイザリースタッフ
元サッカー日本代表

吉原 宏太 氏

門間康成北海道薬剤師会アンチ・ドーピング特別委員会委員が聞き手となりトークショーが開催された。数年来の知人である二人による息の合ったトークがさく裂、時折笑いが交わるなど楽しいひと時となった。吉原さんは、スポーツをするにあたっての体づくりやけが、病気での医薬品との向き合い方、プロサッカーでのドーピング検査事情など多岐にわたる話題にふれ「ドーピングについて身近な存在の薬剤師・SPに相談できる体制

があると選手としてはありがたい。ドーピング検査では知らないうちに禁止薬物を摂取していることもあり、口に入れるものは各自が自覚をもって管理しなければならない」と訴えた。最後にはスペシャルサービスとしてジャンケン大会が行われ、吉原さん自筆サイン入りサッカーボールや色紙が来場者に手渡され会場はおおいに盛り上がった。



吉原 宏太氏 略歴

(よしはら こうた)

1978年2月2日生

大阪府 藤井寺市出身

初芝橋本高校3年時に全国高校サッカー選手権大会でチームをベスト4に導き、自身も得点王を獲得。卒業後の1996年にコンサドーレ札幌に加入。

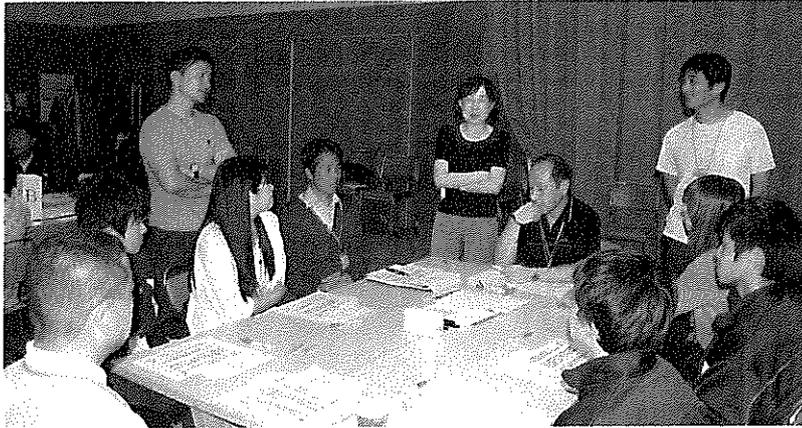
1年目から公式戦27試合に出場するなど活躍し、1998年のJリーグ昇格に貢献。1999年にはU-22(22歳以下)日本代表に選出される。また、同年、日本代表にも選出され、パラグアイで開催されたコパ・アメリカに出場。2000年からガンバ大阪に移籍。2006年に大宮アルディージャ、2009年には水戸ホーリーホックでプレーし、2013年に現役を引退。

現在はコンサドーレジュニアサッカースクールにて子どもたちへの指導を行う傍ら、メディア出演など多方面で活動中。



第二部 皆で考えるアンチ・ドーピングのための
グループワーク

「急な風邪の時の対応」(ケーススタディ)



十勝管内強豪中学校サッカー部2年生18名と関係者、SPを含む薬剤師合計43名が6班に分かれてファシリテーターを中心にグループワークを行い、「Global DRO」をスマートフォンで調べたり、シャイな中学生とのコミュニケーションに苦戦しながらも終始和やかな雰囲気の中でケーススタディについて話し合われ、吉原宏太さんも各班を回り参加者へ直接アドバイスを行っていた。修了証の授与と参加者全員で記念撮影を行い本ワークショップが終了。選手・関係者からは、「ドーピングに対する意識や初めて知ったことなどがありとても参考になった」との感想があり、また薬剤師からは、「指導者側の意見を聞くことができたことや実際にSPの活動している方の意見は貴重、また、この

ような機会をつくってほしい」との開催希望の声が上がった。

おわりに、2018年平昌冬季オリパラ、2019年ラグビーW杯日本大会、2020年東京オリパラなど大きなスポーツイベントの開催や、札幌冬季オリパラ招致に向けて盛り上がる中、選手はもちろん家族やスタッフ、競技団体関係者がともにアンチ・ドーピングに関して正しい知識を身に付けられるよう、今後は道内各地、地域に密着してアンチ・ドーピングの情報発信、教育啓発のサポートが継続的に展開されていくことが望まれる。多くの方にご支援をいただき本ワークショップが十勝で開催できたことにあらためて感謝を申し上げたい。

